

2016 アジア選手権報告書

参加団体名：慶應義塾大学

氏名：細田外嗣、小坂哲生

種目：男子舵手なしペア (M2-)

1. レースの展開、結果、反省点

予選は、風、流れともに逆の厳しいコンディションでのレースとなった。オープンウエイトとはいえ、500mの時点で中国、香港、カザフスタンに1-2艇身を許し、中盤は先頭争いに参加できずタイを見ながら漕ぐといった展開で最後まで差を縮めることができなかった。スタートの勢いにフォーカスするあまり、漕ぎが短くなってしまい良いコンスタントリズムが作れなかったことなど、基本的な課題が浮き彫りとなった。決勝では、前回の反省を踏まえコンスタントレートでの勝負に持ち込むことを考えたが、コンディションが良く、1;38のペースで漕ぎ切った中国、香港や、6;58のタイムを出したカザフスタンにスタートから水をあけられ、またしても4着となり、4位で今大会を終えた。

軽量級が終わってから組んだペアとはいえ、二人の漕ぎのイメージがまだレースという場面で統一されていなかったこと、中国や香港のようにラフなコンディションでもUTでしっかりスピードを出す能力が足りなかったことを痛感した。

2. 国際大会を経験して良かったこと、困ったこと、今後のボート人生にどのように影響するか。

初めてのオフィシャルな国際大会であったが、国内とは違う環境でレースできたこと、世界レベルの漕ぎを間近で見、レースできたこと、日本国内の強豪チームと行動を共にできたことの三点が経験して良かったことだと思う。

ホテルから片道1時間以上かかる試合会場は日本にはない発艇システムや、広大なコース、ボートハウスなど、すべてが新しい経験であった。また、リオデジャネイロ五輪の出場選手や、ペアとエイトなどで優勝した中国チームの漕ぎには学ぶべき点が多々あり、大いに刺激となった。さらにNTT東日本などの国内の社会人チームと行動を共にさせていただき、バスやホテルで様々なお話をしてくださり、普段話すことのない選手方とのコミュニケーションはその後に大きく影響を与えた。

困ったことは、食事と大気汚染、そしてレンタルボートである。大気の汚染や脂の多い食事を毎日続けたため、体調管理に気をつけて滞在した。また、現地でお借りしたボートやオールの設定に時間がかかってしまい、練習時間が削られたことはこちらの準備不足とはいえ痛手となった。

今後のボート人生において、前述した中国のエイトや、対戦した香港や中国のペアの漕ぎを間近でみれたことは大きな衝撃であり、帰国後、クルーで彼らの漕ぎのイメージについて検討、実践できたのも、その衝撃ゆえである。また、私たちは帰国後も思ったように結果を残すことができなかったが、日本代表として同行させていただいたNTT東日本が全日本エイトで優勝したことも我々にとって大きな刺激となった。

最後に同行して下さった市来さんをはじめ、日本ボート協会の方には大変お世話になりました。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。